

仙台市音楽姉妹都市交流

中野平中学校

生徒会長 春原未華子

宮城県仙台市について

私たちははじめに仙台市役所に行きました。市役所では仙台市長の郡和子さんとお話をさせていただきました。宮城県仙台は牛タンやすんだ餅などがある有名なところとして知られています。お話の中で仙台のことだけではなく長野県や中野平中学校の話にもなりました。市長さんとは親しくお話ができるとても楽しい時間でした。お土産としてこけしをいただきました。ランダムでどのこけしも可愛い顔をしていて宝物になりました。



お土産でいただいたこけし

仙台市立五橋中学校さんと交流して

私たちは五橋中学校さんと交流させていただきました。学校に着いたら合唱部、吹奏楽部の発表をしていただきました。五橋中学校さんは各学年およそ200人、全校で600人以上の生徒さんがいます。合唱部の発表では一人一人の声が大きく響き、一つ一つのハーモニーが合わさった時の感動がすごかったです。五橋中学校さんの音楽で繋がる力の大きさを改めて実感しました。吹奏楽部の発表では一つ一つの楽器が主人公となり音楽を作り上げていく迫力がものすごかったです。曲のクライマックスの瞬間には、音色の変化とアンサンブルの美しさが一体となって体中が音に包まれるような圧倒するような感覚でした。曲を聴いた時の楽しかった気持ちがずっと心に残っています。

五橋中学校さんは、生徒会、文化祭、部活についての様子を聞きました。中野平中学校の生徒会役員は3年生だけですが、五橋中学校さんの生徒会は1年生と2年生も加わり全学年で運営していると聞き、驚きました。生徒会で誕生日の人をお祝いする企画を行っていると聞いて、全校でお祝いすることで仲良くなり、お祝いしてもらったらとても嬉しいだろうなと思い、とても良い企画だと思いました。五橋中学校さんにはキャラクターがいて、パイナポ君といい、とても可愛い見た目をしています。元々は五橋中学校さんの玄関前にヤシの木とベンチが置かれており、それが由来のキャラクターだと聞きました。その見た目からパイナップルの頭を想像するのでパイナポ君と名付けられました。中野平中学校でも全校に親しめるキャラクターを作つてみたい！と思いました。

また、五橋中学校さんには修学旅行以外にも泊まりの体験学習が多くあり、いろいろな経験ができるのも一つの魅力だと思いました。五橋中学校さんの文化祭の名前は五橋祭（ごきょうさい）といいます。五橋祭では全校の指紋を使った全校制作を作ったと話していただきました。新しいアイディアで面白いなと思いました。五橋祭の中で書道部がダンスを踊っている間に一つの作品を完成させるというものがあります。全校はそれを楽しみにしていると聞いてみてみたいなと思いました。部活ではバスケ、バドミントン部、茶道部についての話をしました。バスケットボール部は全国でも強豪校で校長室に優勝

旗が飾ってあり、団結力を感じました。バドミントン部は、去年1年生が100人も入部してきて大変だったと聞きました。中野平中学校には茶道部はないので楽しそうだなと思いました。交流を通して、中野平中学校と五橋中学校さんとの文化の違いを知ってたくさんのこと学べました。また、いい企画があったので中野平中学校でも取り入れていきたいと思いました。五橋中学校さんの皆さんと仲良く交流でき、楽しい時間を過ごせることができました。

パインボ君



土井晩翠先生について

土井晩翠先生（1871年1月12日 – 1953年4月16日）は、日本の詩人、教育者、文学者です。彼は明治から昭和にかけて活躍しました。宮城県仙台市で生まれ、仙台一高（現在の宮城県仙台第一高等学校）を卒業後、東京帝国大学（現在の東京大学）に進学しました。幼い頃からお父さんの影響で漢字に興味があり、英語が好きだとお聞きしました。土井晩翠先生は長野県の信州大学の校歌を作曲しました。文学を専攻し、優秀な成績を収めました。文学活動では彼は特に詩作において高く評価され、滝廉太郎の作曲でも知られている「荒城の月」などの詩を作詞しました。これは日本の代表的な童謡・唱歌として広く知られています。荒城の月が掲載された中学唱歌は、東京音楽学校（現在の東京芸術大学）が中学校用の教科書として、編集・発行したものです。音楽学校が文学者たちに唱歌の作詞を依頼、公募し、荒城の月には滝廉太郎の曲が採用されました。土井晩翠先生は、詩人としてだけではなく教育者としても活躍しました。彼は、多くの若い学生たちに詩や、文学の魅力を伝えました。今、ある晩翠草堂は、戦災で住居と蔵書を失った土井晩翠先生のために、教え子など市民有志が中心となり、昭和24年に旧居跡に建設されました。土井晩翠先生は、昭和27年に満80歳で亡くなるまでの数年を今ある晩翠草堂で過ごしました。土井晩翠先生は教え子からすごく慕われている良い方だったんだなと思いました。

東日本大震災について・せんだい3.11メモリアル交流館

私たちは、荒浜小学校に行く前にせんだい3.11メモリアル交流館に行きました。交流館は東日本大震災で被災した方々が気軽に立ち寄れるスペースを作るために立体地図がありますが海の色を見るだけで怖いという方への配慮のもと、青色を使っていませんでした。また、展示室では震災被害や復旧・復興の状況などを伝える常設展と、東部沿岸地域の暮らし・記憶などさまざまな視点から震災を伝える企画展で構成されていました。津波により被災した東六郷小学校体育館の床材を地域の方が少しだけでも残そうと展示室の床と机の天板、理科室の椅子も実際に使用しているようです。実際に被災された交流館の方の話を聞きました。

東日本大震災では、村をこえて高速道路まで津波が押し寄せてきました。その時に、駐車場に停めていた車に乗っていた女性は、直線距離2キロくらい流されて必死になって高速道路に捕まり、登って助かったという話を聞き、どれだけ津波が恐ろしいものなのか改めて実感しました。津波はもちろん水だけ流れてくるわけではないそうです。いろいろなものが混じってヘドロになって村を飲み込みました。建物や、家などそこにあったものはすべてヘドロで覆われてしまい、高速道路の向こうには白黒世界しかありませんでした。この時の写真を見せていただき、初めはなんでモノクロなのだろうと疑問に思っていましたが、カラー写真と聞いた時は驚きの声も出ませんでした。

仮設住宅ができるまで3ヶ月かかり、また、支援物資の服が届きましたが汚れたものばかりで着られる服は届いた分の半分以下しか着られる服がなく交流館の方は「その服装では絶対に外に出られないけど、みんなサイズが合えばなんでも着ていた」と話していて、生きることに必死だったということをすごく感じました。また、三世帯の家族が多くいて、仮設住宅で離れ離れになってしまう方もいらしたようです。そんな状態で気持ちが不安定になり、鬱になってしまふ方が多かったようです。仮設住宅の中では、少しでも早く復旧・復興できるように祈りながらのキーホルダー作りや、鶴が折られました。今でも手助けをしてくれた方々へ向けてキーホルダーを作り感謝していると聞きました。



した。私たちもキーholderをいただきました。大切にしたいと思います。今でも、仙台七夕まつりで鶴が折られていてそれをリサイクルして賞状へ、実際に羽生結弦選手の賞状に使われたそうです。

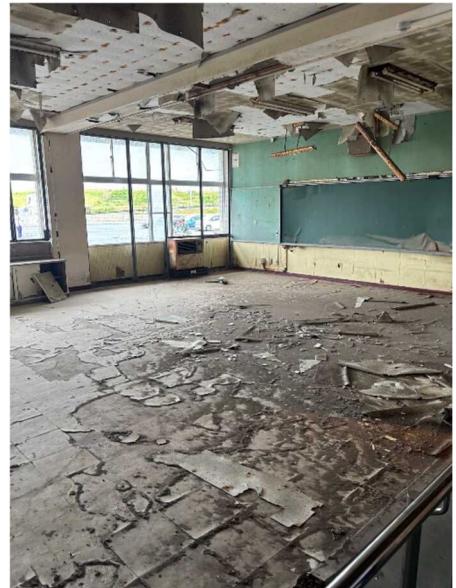
最後に交流館の方から「もし、災害が起きたら自分の命を優先してください。他のことは後でもできる、命がなきや何もできない。」という話を聞いていただきました。私は2011年3月11日のときには、まだ赤ちゃんだったので記憶はないですが、交流館の方からお話を聞いて津波の恐ろしさを知り、災害への準備がとても大事だと気づきました。自分なんて関係ないとは思わず災害について学ぶことがとても大切です。今という一度しかない人生を大切にしていきたいと思いました。



せんだい 3.11 メモリアル交流館の方にいただいたキーholder

荒浜小学校

私たちは、東日本大震災で実際に津波で被害に遭った「荒浜小学校」に行きました。荒浜小学校は、1873年（明治6年）創立され、震災当時は91人の児童が通っていたそうです。この学校は4階建てで2階の膝くらいの高さまで浸水しました。津波が直に当たった部分の柵は折れ曲がり今にも落ちそうなくらいにボロボロになっていました。1階にあった1年1組の教室には、3台の車や、瓦礫が流れ廊下まで押し寄せたそうです。今、瓦礫は処分されていますが教室の天井を見ると剥がれていて床は砂だけでした。また、黒板が剥がれた教室もあり、津波の威力がすごく強かったんだなと思い怖かったです。荒浜小学校には、大きくて立派な体育館がありましたが、ボロボロになってしまい入れなくなっていました。震災当時は周辺には高くて丈夫な建物は荒浜小学校しかなかったため、児童や職員、地域の方合わせて320人が避難してきたそうです。一方で津波が落ち着いて家に物をとりに戻った方や「もう、大丈夫だ」と思って家に帰った方などは後から来た波にのまれ、190の方が亡くなってしまいました。3階の教室の黒板には、感謝の気持ちや先生が修学旅行の写真を貼り、元気を取り戻そうとしている人も立ち直れる言葉が書いてあって感動しました。他の教室には、体を温めるために使った毛布や紅白幕が置かれていたり、津波について学習できる展示があったり、すごく



為になりました。私たちは、この経験を通して、いつ、どこで起きるかもわからない災害を、身近な人にも伝えて災害に備えて自分ができることを準備していきたいと思います。

仙台市との交流を終えて

この仙台音楽姉妹都市交流を通して、私は1泊2日の仙台市との交流を通してたくさんのこと学びました。五橋中学校さんは、交流して中野平中学校にはない企画があり、違いを感じられてとても楽しかったです。企画を参考にさせていただきたいと思います。私たちは仙台の花火大会も行くことができました。仙台七夕まつりは、東北三大祭りの中の一つです。席が用意されていて初めてあんなに大きくて綺麗な花火を見てることができてとても楽しかったです。土井晩翠先生は、教え子から慕われている尊敬できる方で学ぶ機会ができとても面白く、音楽の勉強にもなりました。せんだい3.11メモリアル交流館、荒浜小学校では東日本大震災について学びました。私は、東日本大震災が起こったと知識として知っていましたが津波の恐ろしさ、災害への準備の大切さを改めて実感でき、災害について考え直す良い経験になりました。この交流は、私にとってすごく価値のある経験をさせていただきました。仙台の魅力、仙台で学ばせていただいたことを忘れず、稲穂祭で全校の心に残るような発表をしたいと思います。五橋中学校の皆さん、仙台市役所の皆さん、中野市役所の皆さん貴重な経験をありがとうございました。



中野平中学校

生徒会副会長 小池駿平

仙台市について

仙台市は宮城県の県庁所在地であり、人口が109万人を超える東北地方最大の都市です。仙台では祭りは仙台七夕祭り、食べ物は牛タンやずんだ餅、笹かまぼこが有名です。また、「杜の都」と呼ばれていて、緑が豊かでした。

仙台市役所へ表敬訪問

仙台市についてからはまず市役所へ表敬訪問に行きました。市役所では仙台市長や、職員の方々とお話ししました。仙台七夕まつりや、有名なものについてたくさんお話をいただきました。僕たちも中野市のことについてたくさん紹介することができました。

訪問の最後にはこけし缶というものをお土産としていただきました。僕がもらったのは富塚由香さんが作った、弥治郎系こけしというものです。東北地方の伝統が感じられる可愛らしい作品でした。

仙台市立五橋中学校との交流

市役所に行った後は五橋中学校を訪れました。学校に着いてからはまず、合唱部と吹奏楽部の演奏を聞きました。

合唱部は中野平中学校にはない部活なので新鮮な感じがしました。合唱は少ない人数なのに関わらず大きな声量で圧巻されました。明るい感じの曲、暗い感じの曲など曲調に合わせて歌声や雰囲気を変えていたり、声量が大きいからこそ、メリハリがしっかりしていたりして、歌に込められたメッセージをしっかり感じました。

吹奏楽部の演奏は、強豪校なだけあって、迫力がすごく聞きいってしまいました。

その後は意見交流をしました。五橋中学校には「パイナポくん」というキャラクターがいます。その名前は学校の中にあるパイナップルベンチというものからつけられたそうです。中野平中学校にも、マスコットキャラクターがいたら、面白そうだなと思いました。



五橋中学校の生徒会については、役員が3年生だけでなく、各学年に書記がいたり、2年生も役員として活動したりしているらしいです。交流してくれた人の中にも2年生がいて、ずっと3年生だと思っていたので驚きました。

他には行事がとても充実していて、1年の時には、野外学習、2年の時には校外学習（修学旅行）や職場体験学習、文化祭である五橋祭、そして実際に陸上競技場へ行って行う、中野平中学校でいうクラスマッチのようなスポ・レクがあるらしいです。たくさんの行事があってとても楽しそうでした。

部活動については、バスケットボール部が強いらしくて賞状やトロフィーを見せてもらいました。中野平中学校にはない書道部や茶道部、ハンドボール部、バドミントン部など部活動の種類もたくさんありました。

たった2時間でしたがたくさんの学びがある時間を過ごせました。



晩翠堂訪問

2日目の最初には晩翠草堂へ行きました。晩翠草堂は高いビル群が立ち並ぶ中にそこだけ時がとまったようにポツンと立てられていました。

土井晩翠さんは1871年に生まれ、晩翠草堂には1949年（78歳）の時に住まわれました。そして80歳でなくなりました。

僕は晩翠さんについては恥ずかしながらあまり知りませんでしたが、生涯なでされたことを聞いてびっくりしました。まず有名なのは「荒城の月」を作詞したことです。荒城の月は音楽の授業でやったので僕でも知っていました。他には310もの校歌を作ったと聞いて、実際にどこで校歌を作ったのか資料がありましたが、すごい数で、これを晩翠さんが作ったのだと思うと本当にすごいなと思いました。

晩翠草堂の中には晩翠さんが作った詩や、晩翠さんが実際に使っていた下駄や、そのままの状態のベッドと枕などがありました。

晩翠草堂を見て、晩翠さんはとても偉大で、愛されていたんだなと感じました。



3.11 メモリアル交流館訪問

晩翠草堂を訪れた後には3.11メモリアル交流館を訪れました。交流館では東日本大震災について説明を受けました。メモリアルホール1階には立体地図や本がありましたが、震災があったときに避難しに来る人もいたので、震災のことを思い出さないように地図は抽象的で色がついておらず、本には津波などの写真が載っていませんでした。被災者が震災のことを思い出さないような作りになっていていいと思いました。



2階には展示室があり、たくさんの写真がありました。最初にその写真を見たとき、恐怖を感じました。賑やかで緑豊かな街を飲み込む津波や、震災後の真っ黒な街並みは震災の実態をはっきり表していました。一瞬にして無惨な姿になってしまった街を見て本当に心が痛みました。

荒浜小学校訪問

交流館を訪れた後は、荒浜小学校へ行きました。荒浜小学校は震災の津波の中で唯一残った建物らしいです。荒浜小学校の外観には、「ありがとう荒浜小学校」という文字が掲げられていました。地域の人たちから愛されていたのだなと思いました。しかし、細部を見てみると、柵が錆びてぐにゃりと曲がっていたり、一部が破損していました。



実際に小学校の中に入ると、1階はかなり悲惨な様子でした。天井は剥がれ、泥だらけでした。震災直後は車や瓦礫で廊下が埋まっていたらしいです。



展示してあった震災後の写真を見た時、荒浜小学校だけがポツンと残っていました。説明を聞くと、4.6メートルもの津波が荒浜小学校を襲い、2階の40センチくらいまで水がきたらしいです。小学校の2階にはくっきりと跡が残っていました。

屋上からは荒浜の景色が見渡せました。ここ一体が全て埋めつくされたなんて恐ろしいと思いました。

メモリアル交流館と荒浜小学校の見学の中で写真や係の人の説明を受けて、東日本大震災をあまり知らなかった僕も、震災の悲惨さを知ることができました。そして、荒浜小学校をはじめとした東日本大震災の記憶を後世に伝えていきたいと思いました。

仙台姉妹都市交流を通して

初めての仙台ではたくさんのこと学ぶことができました。五橋中学校との交流会を通しては他県の中学生と関わって、もちろん同じところもあるけど、違うところもたくさんあって新鮮でした。長野県から出たからこそわかる常識の違いをたくさん知れて交流するのがとても楽しかったです。

また、東日本大震災について、はじめはあまり知識がなかったけど、色々な見学を通して体と心で悲惨を感じることができました。

土井晩翠さんについても、中山晋平さんとの縁で、交流することができ、感慨深いです。

この二日間多くの事を学ぶことができました。ありがとうございました。

おまけ

仙台では前に書いた他にも仙台らしいことをたくさん経験できました。まずは仙台名物の牛タン、そして、ずんだ餅です。どちらも本場で食べるととても美味しかったです。



中野平中学校
生徒会副会長 塚田憲生

仙台市役所

仙台市役所では、仙台市長である郡和子（こおり かずこ）市長とお話をしました。仙台についてや、この後に行く3.11メモリアル交流館のことなどを丁寧に話してくれました。そして、仙台で有名な作並系こけしを仙台市役所からいただきました。



仙台市立五橋中学生

五橋中学校では音楽に力を入れていて合唱部や吹奏楽部は全国レベルと言っていました。その後五橋中学校の合唱部の歌を聴きました。人数はあまり多くなかったですが、一人一人が声を出して気持ちのこもった迫力のある合唱でした。次に、吹奏楽部の演奏を聴きました。僕は、一番最初の音から迫力を感じたのが印象に残っています。

その後に五橋中学校の役員たちと意見交流をしました。中野平は3年生が会長、副会長ですが五橋中学校は、会長が3年生で副会長が2年生で驚きました。五橋中学校にはマスコットキャラクターがいました。名前は、パインアポくんと言ってとても可愛かったです。名前の由来は、学校にパインアップルに似たベンチがありそこからパインアポくんになったそうです。授業の受け方も異なり、中野平は学び合いをしていて4人グループで授業を行っていますが、五橋中学校の授業は基本的に机を前向きにしたものらしく、先生がしゃべったり、黒板に書いたことをノートに写したりしているそうです。五橋中学校の皆さんも、授業の違いにとても驚いていました。僕は、初めて県外の中学校との交流で緊張していましたが、五橋中学校の人たちが親切に接してくれてとても楽しい時間を過ごせました。

授業の受け方だったり、生徒会の仕組みだったりと、当たり前と思っていたことが外に出てみると案外違ったりするものなのだと思います。だから外の世界を見ることはとても大切なことだと感じました。



3.11 メモリアル交流館

3.11 メモリアル交流館では、東日本大震災での出来事を教えてもらいました。最初に仙台で津波の被害にあった範囲を教えてもらいました。とても範囲が広く、大きな津波だと思いました。その後に、東日本大震災の時のお話を写真を見ながら聞きました。話をしてくれた人は実際に東日本大震災で被害にあった方で、当時のことを詳しく語ってくれました。部屋の中にはいっぱいの写真があってどれも衝撃的な写真ばかりでした。特に衝撃的だったのは、みんなで避難所に移動している写真です。僕は最初見た時この写真は白黒写真だと思いました。でもその写真はカラー写真で実際に被害にあった場所が白黒の世界になっていたそうです。僕はこの写真から、東日本大震災の被害者は僕たちが思っている以上に悲しい思いをし、絶望したのだと思いました。

また、話をしてくれた人は僕たちに「またこのような災害が起こったらまずは逃げるようにしてください」と言いました。命さえあればまたやり直せると言いました。その人も実際に被害にあって全てを無くしたと言っていました。でも今こうしてやり直せていると言いました。僕はこの言葉がとても印象的で今でも覚えています。この3.11メモリアル交流館で学んだことを文化祭で学校の生徒たちにも伝えたいです。



荒浜小学校

荒浜小学校は実際に津波の被害にあった小学校でそのままの状態で保管されています。津波は2階まできただけでベランダの柵は折れたり、曲がったりしていました。中に入るとまず一階にある保健室に行って被害の様子を見ました。窓や扉が取れていて床が剥がれていきました。隣の教室をみると、黒板が津波によって取れていきました。廊下には次の日の写真がありました。車やがれきなどが廊下に押し寄せていました。3階の教室の黒板には、当時の生徒たちのメッセージが書かれていました。「負けるな」や「立ち上がり」などの応援メッセージや「ありがとう」の感謝のメッセージなどさまざまなことが書かれていました。机の上に当日の荒浜地区を再現した模型がありました。今とはぜんぜん違っていて、津波の恐ろしさがわかる模型でした。最後に当時、体育館にあった時計を見ました。その時計は3時55分で止まっていて、その間に津波が学校に来たことがわかりました。津波の被害にあって生き残った貴重な学校に行くことができ、とても貴重なものを見られたと思います。



・まとめ

この仙台訪問を通して、私はいろんなことを経験し、学んだ2日間でした。五橋中学校では、今まで当たり前だと思っていたことが、仙台では全く異なり、外の世界も見る大切さを学びました。3.11メモリアル交流館では、授業などで学んだ東日本大震災のことを、当時を経験した人の生の声から詳しく学ぶことができました。荒浜小学校では、津波の恐ろしさや当時の生徒たちの想いなどを学ぶことができました。この仙台訪問での経験を中野平中学校の生徒たちにも伝えたいです。